

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34415

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12609

研究課題名(和文)南アジア系社会における肉食文化の比較民族誌的研究

研究課題名(英文)A comparative ethnographic study of meat-eating culture in South Asian societies

研究代表者

中川 加奈子(Nakagawa, Kanako)

追手門学院大学・社会学部・准教授

研究者番号：80782002

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバル市場への包摂が急速にすすむ南アジア系社会において、従来、宗教や民族、及びカーストに強く規定されると見なされてきた食肉をめぐる価値規範を比較民族誌論的に再考するものであった。本研究を基研究として「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 A)」に採択されオックスフォード大学人類学博物館民族誌学部で研究を実施した。主な成果として、第一に市場化に伴いカーストや宗教コミュニティなど従来食肉を主に儀礼において扱ってきた組織はどのような変貌を遂げるか、第二に食肉の規格化と公衆衛生の管理強化を受けて屠畜実践はどのように再編成されるのかを、国内外の査読付雑誌等において発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は第一に、これまで世界的にも民族誌が少ない南アジア系社会の屠畜従事者たちの生活世界を、詳細かつ比較民族誌的に解明した点である。第二に、これまで、経済文脈から切り離され社会政治的文脈のもとで描かれがちであった「カースト」「宗教」「民族」の研究視角に、食とそれを取り巻くネットワークがもたらす動態を捉える視角の接合が果たされた点である。第三に、グローバル化時代の南アジア系社会の文化的変動を、越境性に注目した独創的な視点から、時間軸・空間軸で厚みをもって正面から記述した点である。これにより、学术界に限らず実践面でも多くの視点を提供する意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：This research was a comparative ethnographic reconsideration of the value norms surrounding meat, which have traditionally been considered to be strongly determined by religion, ethnicity, and caste in South Asian societies, where inclusion in the global market is rapidly progressing. Based on this research, a research proposal for the Fund for the Promotion of Joint International Research (Fostering Joint International Research) was selected to conduct research at the School of Anthropology and Museum Ethnography, University of Oxford. The first main results showed how organizations that have traditionally handled meat mainly for rituals, such as caste and religious communities, has changed as a result of marketization. The second main results indicated how traditional butchering practices has been reorganized in response to the standardization of meat and the public health control measures by the government.

研究分野：文化人類学

キーワード：屠畜 肉食文化 近代化 公衆衛生 カースト 南アジア系社会 供犠儀礼 都市社会

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2014年より、インドは世界一の牛肉輸出国となった。宗教や民族を超えた相互行為が多くなされるグローバル時代の南アジア系社会において、肉食文化は、その都度の人々の間の力関係や交渉・折衝を反映させる形で日々生成し、変化し続けている。その中で、市場を介した宗教や民族を超えた交渉やそこから創発される展開の「越境性」そのものを捉える研究視角が望まれている。

これらの背景を受けて、本研究では、インドやネパールにおいて、伝統的に水牛やヤギの加工を担うヒンドゥー「低カースト」の人々を中心に、南アジア全般において牛・水・牛・ヤギの食肉を扱うムスリムの人々、ネパール・インドの一部地域で豚や牛の食肉を扱うチベット系民族、及び日本の南アジア系移民コミュニティの肉食文化を対象とする。近年のグローバル市場経済への包摂を背景とした食肉業従事者の宗教間、カースト間、民族間、宗教間における日常的な交渉のあり方を、経済領域と文化領域を横断しつつ、重層的に描き出していくことを狙いとする。

2. 研究の目的

本研究では、ネパール、インド、日本やアジアにおける南アジア系移民コミュニティの肉食文化を詳細な民族誌的データをもとに比較検討することにより、南アジア系的価値体系の根幹ともいえる浄/不浄、合法/不法、吉/凶などの価値観が、グローバル市場との交渉・折衝のなかでいかに接合されるのか、また、融合し、新たな価値の生成に至ることは可能なのかを、明らかにしていく。

そのために、本研究の目的は、南アジア系社会において食肉が、グローバル市場に取り込まれることに伴うアクターの多様化過程とアクター間に見られる独自の行動規範や共同性の創出過程を下記の通り、時間軸/空間軸で明らかにすることである。

3. 研究の方法

〔時間軸からの分析〕食肉業組合、商工会議所、ハラール協会の会報および統計資料、各種法令などの文献調査、聞き取り調査を基に、ネパールおよびインドの食肉市場、日本の南アジア系移民による外食産業やハラール食品市場がどのように形成されてきたのかを、カースト制度や民族範疇、世俗化に関する政治的動向を対照させつつ概観を行う。中でもネパール語の歴史書を保有する研究機関、および儀礼への供物を管理する団体(グティサンスタン)との信頼関係を既に築いているカトマンズでは、遡れる限りの時間軸で供犠獣の調達に関する資料の収集・分析にあたる。

〔空間軸からの分析〕食肉流通網の拡大により、肉がカーストや民族、宗教や、時に国境を超えて流通するようになったことを受けて、食肉に関するアクター間のネットワークがどのように構築されるかについて、ネパールおよびインドの経済構造の変化を対照させながら分析を行っていく。主にインド/ネパールの国境沿いの家畜市や、デリー、コルカタ、カトマンズの肉屋の店頭、食料品の露店が集まる市、および日本の南アジア系移民コミュニティにおいて参与観察を実施する。

4. 研究成果

申請者は博士論文にて、ネパールの「供犠・肉売りカースト」カドギが、食肉需要の拡大や政治体制の移行を背景に、日常的な商実践や儀礼を通してカーストを自分たちにひきつけながら読み替え、差別に対峙してきたことを明らかにした(中川 2016)。本研究による成果として、大きく次の二つのトピックでの成果が挙げられる。

(1) グローバル市場の進展を受けた食肉加工を担う組織の変容に関する考察(空間軸)

グローバル市場の展開を受けて食肉需要はさらに拡大し、一方で新型コロナウイルスのパンデミックを経て、公衆衛生の管理と屠畜の不可視化はいっそう進められた。カドギたちは政府と提携を深めながら食肉加工の公社を設立する。これに関し、カドギたちが食肉を「白い肉」(衛生管理された冷凍肉)と「赤い肉」(伝統的な屠畜による生の肉)に分類し、文化政治を通して食肉市場での地位の保持を図っている様相を考察し、査読付きの学術誌にて発表した(中川 2020)。また、カドギたちがカーストを序列とは関係のないカテゴリーとみなし、全国規模のネットワークを形成する動きについて考察をし、学術書において発表した(中川 2022)。

(2) 近代化と公衆衛生言説の浸透を受けた屠畜実践の再編に関する考察(時間軸)

上記の展開を受けて、カドギたちや屠畜という営為そのものは、一見、代替可能な労働力として国家体制に取り込まれつつあるように見える。しかしながら調査していく中で、カドギたちは「自分たちにしかできない」代替不可能な血の供儀の執行という儀礼的役割に誇りを持ち、その維持に拘っていることが確認された。彼らがなぜ屠畜を正当化し続けているのか、その意味を時間軸で考察し、査読付きの学術誌において発表した(中川 2023)。

さらに、2019年度、申請者は本研究を基研究として国際共同研究に採択され、これを受けて

2021年9月から2022年3月にかけてイギリスのオックスフォード大学で研究に従事する機会を得た。ポドリアン図書館や大英図書館の文献を渉猟した際、18世紀、19世紀の宣教師や東インド会社の記録資料の多くが閲覧可能であった。そこでの文献研究や理論的再検討をもとに、歴史人類学的な視点を取り込み、屠畜の創造的再編について、彼らがいかに伝統と近代を「組み直し」(re-assemble)しているのかという観点から考察し、査読付きの学術誌において発表した(Nakagawa 2024)。

こうして、空間軸での民族誌的資料と時間軸での歴史的資料とを交差させ、照らし合わせながら、現在、本研究に関する最終的な成果物として、英文単著『Living a caste: An Ethnography of Animal Sacrifice and Meat-Selling in Contemporary Nepal』の出版にむけ、準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中川加奈子	4. 巻 88
2. 論文標題 我々はなぜ切らねばならないのかーネパールの肉売りカースト「カドギ」による屠畜の再構築	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 56-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.88.1_056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kanako Nakagawa	4. 巻 in print
2. 論文標題 Improve the Work of Our Jati to Uplift the Community: The Reorganization of a Traditional Caste Based Practice	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Studies in Nepali History and Society	6. 最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川加奈子	4. 巻 46
2. 論文標題 ネパールにおける公衆衛生の管理強化と「肉売りカースト」の戦術的適応 「白い肉」と「赤い肉」をめぐる文化政治を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 65-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanako Nakagawa	4. 巻 conference proceedings 2016
2. 論文標題 shifts in the strategy of caste representation: Links between everyday life practices and identity politics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 conference proceedings 2016: the annual Kathmandu conference on Nepal and the Himalaya,	6. 最初と最後の頁 130-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中川加奈子、葛西映史子、古川彰	4. 巻 133
2. 論文標題 フィールドワークにおける実感の越境性についての一考察：古川彰研究室のネパール「共同調査」を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 45-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Kanao Nakagawa
2. 発表標題 improve the work of our caste to uplift the community: A case study of meat processing company in Nepal
3. 学会等名 World Conference 2023, International Union of Anthropological and Ethnological Science (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kanao Nakagawa
2. 発表標題 Transforming caste into networks for business opportunities: a case study from the meat sellers in Nepal
3. 学会等名 Himalayan Studies Conference in Toronto 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kanao NAKAGAWA
2. 発表標題 The Modernization of the Meat Industry and Its Tactical Adaptation by the People of "Meat Seller Caste" in Nepal
3. 学会等名 The 12th INDAS-South Asia International Conference, "Understanding the Transitional Process from Agrarian to Industrialized Economy in South Asia: With a Focus on Employment and Labor Markets" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中川加奈子
2. 発表標題 ネパールにおける「健康」「衛生」言説の生成と肉食文化の展開
3. 学会等名 第53回日本文化人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川加奈子
2. 発表標題 ネパールにおける食肉加工業近代化とコーポラティズム
3. 学会等名 2020年度INDAS国際シンポ事前報告会南アジア経済産業研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanao Nakagawa
2. 発表標題 the rearrangement of social relationships mediated by the marketization of buffalo meat: a case study from caste-ordained meat sellers in Nepal
3. 学会等名 IUAES inter congress 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川加奈子
2. 発表標題 近代化と肉食タブー：ネパールにおける「肉売りカースト」の人びとの試み
3. 学会等名 第3回立命館大学嗜好品研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川加奈子
2. 発表標題 ネットワーク化するカースト：ネパールの肉売りカースト『カドギ』たちの起業とその展開
3. 学会等名 2018年度MINDAS合同研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 三尾稔編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 322
3. 書名 南アジアの新しい波	

1. 著者名 日本ネパール協会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 396
3. 書名 現代ネパールを知るための60章	

1. 著者名 Kanakano Nakagawa	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Himal Books	5. 総ページ数 208
3. 書名 conference proceedings 2013, the annual kathmandu conference on nepal&the himalaya	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	オックスフォード大学			